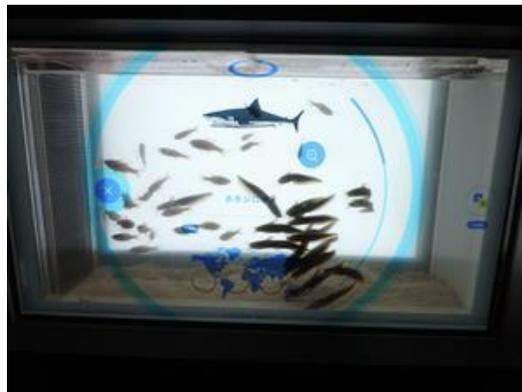
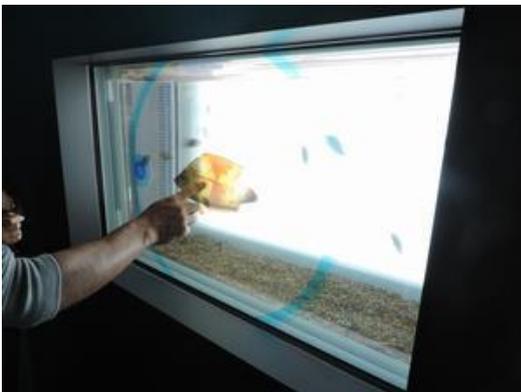




### 動物のいない動物園

7月7日七夕の日、エプソン品川アクアパークさんのリニューアル内覧会にお招きを受け行ってきました。以前のアクアスタジアムの時も行ったことはなかったので初めてのエプソン品川さんでした。

いやあ驚きました。入ってすぐドルフィンパーティーというお魚のメリーゴーラウンドがお出迎えしたかと思うと、船がスイングする絶叫型のアトラクションが。そのほか音と光が演出するクラゲのショーケースのような展示室や発光サンゴを見ながらのおしゃれなカフェバーなどもあり（寿司屋さんのある水族館もありますが）都会の水族館はこんなにも洗練され進化してるんだという思いを強くしました。まさに仕事帰りのカップルなどにとってのデートコースなんじゃないでしょうか（ちょっとオッサンぽいコメントで）。しかし一番驚いたのはタッチパネルの水槽に現れるCGを駆使した生き物（生きてないですが）です。水槽のガラス面を指で操作すると、CGの魚たちが色んな動きをしてくれるのです。もちろんその魚の解説なんかも出てくるので楽しみながら学べる、という優れたものです。実はその水槽には本物の魚も泳いでいるため、現実と仮想の境目を行ったり来たりできるのですが、おじさんにはちょっとクラクラしそうな世界でした。思わず一緒に行った仲間に「こりゃ飼育員はいらないね」と冗談交じりに言ったのですが、その瞬間、私はあることに思い至りました。



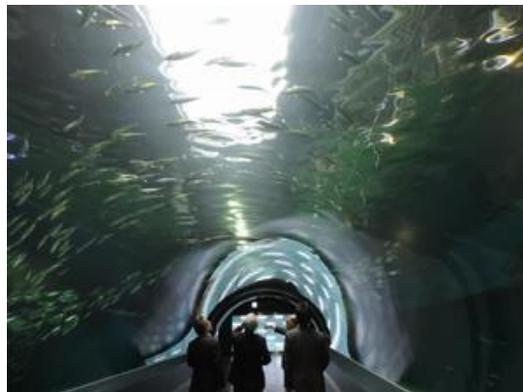
《タッチパネル》

話はいきなり飛びますが、私はほんの趣味程度でマラソンというかジョギングをやっているのですが、走ってる間、色んなことが頭をよぎります。最近はやホンで音楽を聞きながら走る人も多いのですが、おもに海岸沿いを走る私は、じかに風や波の音を感じたいので、まったく頭カラッポ、いやもともとカラッポですが、そんな状態で走っていると、勝手に色んなことが頭の中をよぎっていくのです。ランナーズハイではないです、速くないので、ハイ。



《海沿いのジョギングコース》

あるときいつものように近くの海岸コースを走っていると、近未来の動物園がフラッシュバックのように頭の中に映し出されました。そこは動物園なのですが肝心の動物はみなロボットなのです。勝手によぎる、と書きましたがもちろんそういう光景が急に出てくるわけではなく、「動物園のゴリラがもう野生から入らないのだな」とか「動物園動物の血統が限界に達するとどのように動物を調達すればいいんだろう」とか考えながら走ってるうちにそんな光景が頭に浮かんできた、というのがまあ本当のところですよ。昔、SF小説にはまっていたことがあり、もしかするとそんなテーマのSFがあってそこからサブリミナル的に自然と浮かんできたのかもしれませんが思い出せません。とにかく、その動物園では生きた動物がいない。その代わり本物と見紛うばかりに造られた精巧なロボット型動物達が展示場を闊歩し、その動きも洗練されたテクノロジーで実物と寸分変わらないのです。しかも吠え方や鳴き声まで巧妙にプログラミングされています。エサの調達もなければ獣舎の清掃も必要ない。なので飼育員もいない。いるのはプログラマーやメカニック、エンジニアなど、機械を操る数名のみです。先ほど近未来と書きましたが、すでにこういう光景に出合ったことがもう20年以上も前にあります。そう、ディズニーランドのジャングルクルーズなどの動物(?)達です。初めて行ったTDLではまだ動きはぎこちないものの、結構鮮烈な印象だったのを覚えています。動物のいない動物園・・・見た目は動物園でなのでしょうが、何か決定的におかしい。そう、それは動いてはいるけど生きていないこと。そして「命」を繋げないことです。そういう擬似動物を展示しても私たちに伝えられることは何もありません。



《クラゲやワンダーチューブの魚たち・やっぱり生き物ってイイ》

今話題となっているイルカ捕獲問題を含め、動物園ではどのように動物を収集するかが大きな課題となっています。今後野生から動物を入手することはますます厳しくなっていくことでしょう。また、近親交配を避ける意味からも動物園という限られた枠内での繁殖も制限付きとなってくる。このため海外の園館を含めたグローバルな展開を視野に入れる必要が生じるでしょうし、国内の動物園水族館でつくるJAZAも手をこまねているわけではなく、単独の園館の思惑を超え、日本全体でどのように動物を収集していくかという視点で進めているJAZAコレクションプランもますます充実させていかなければならないと思います。いずれにしても多種多様な動物を提示していきたい私たちとしては厳しい時代に入ってきていることだけは認識しなければなりません。



«カピちゃん、いたあ»



«躍動感！健在です»

エプソン品川さんのタッチパネル水槽は、娯楽と教育の融合を新しいスタイルで提示した  
ものとして素晴らしいと思いますし、この他にも通常通りの魚や生き物などを斬新な展示形  
態で楽しませてくれましたが、ふと動物園の行く末を個人的な過去の記憶と相まって突然思  
い出させてくれた、という意味で忘れられない内覧会となりました。

館長様をはじめスタッフの皆様ありがとうございました。

[※どうぶつのくに「あっ、かみね動物園だ！」連載中](#)

2015年7月18日

---

## 過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)